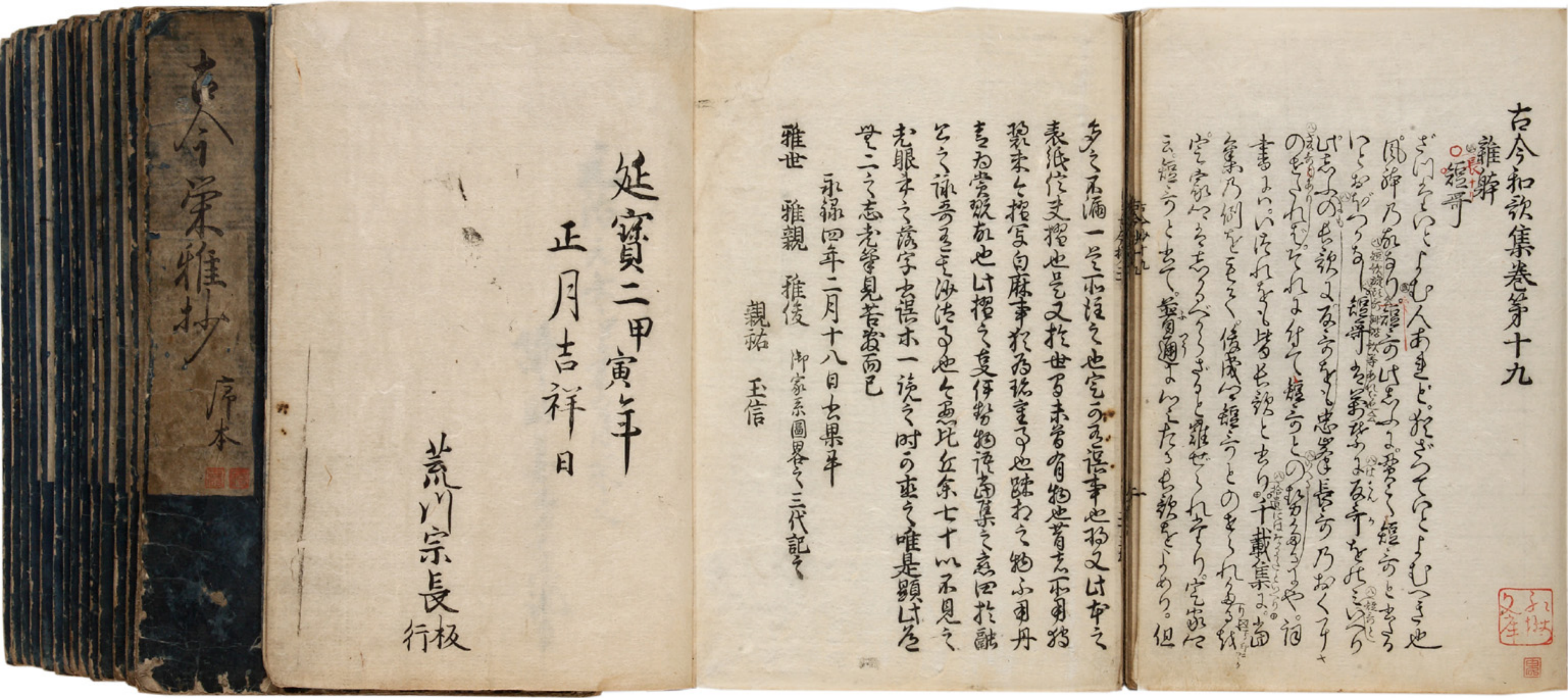

古今栄雅抄　序本

---

延寶二甲寅年
正月吉祥日
荒川宗長
板行

---

多之不漏一字不誤之也定而可有誤事也將又此本之
表紙依是摺也是又於世可未曾有物也着去正月將
聚本令被写白麻事於為据定可也跡於之物不用丹
青為賞翫者也此摺之度伊勢物語南集之意四於融
公之詠哥毛二毛渉滞可也今為比丘余七十以不見之
老眼本之落字或誤亦一読之時可正之唯是顯此為
世二之志老筆見苦敷而已
永禄四年二月十八日　出果平

雅世　雅親　雅俊　御家系圖略之三代記之

親祐　玉信

---

# 古今和歌集巻第十九

## 雑躰

○短哥（長ナリ）

ざれをいとよむ人あまた。於ざらてやとよむべき也
風躰乃あまり短哥の此歌は。古く短哥と書ところ
にとおなじつゝなし。短哥を栄雅ふよ長哥をあらいへり
此志ふの長歌よ長歌をも忠峯長哥乃おくて
のもられもそれよ付て短哥との物いふるてや。詞
書はいはれなも皆長歌と書り。千載集よ。当
集乃例をまとく俊成は短哥とのせられたるを
定家は長哥と雑歌とのせられたり。定家は
云。短哥と書て。普通よいひたるも長歌をとふあり。但